

13 | 蓮（れん） / 小5 男児・ロムアンドユーザー

鎧をつけて、ダンサーになる——男がメイクしたいは理由が必要な時代に、蓮は家族の承認を背に、ユニフォームを着るようにメイクして今日もよし、行けると立ち上がる

3 分ブリーフィング

【パート A：普段のメイクスタイル】

根拠：ロムアンドのくすみ系ブラウン・グレーのアイシャドウを使用。「K-POP のアイドルの真似でメイクする」「男の人がメイクしてるのがかっこいい」「ダンス仲間はわかってくれるけど他の子には言ってない」と発言。「男がメイクするのって変って思う子もいそうで言わない方がいいかなって」と発言。

推論：メイクの動機は K-POP アイドルへの憧れとダンサーとしてのかっこよさの追求が核心だ。社会的性別規範への意識が強く、メイクをオープンにできる対象を慎重に選別している。ダンス仲間という「同じ文脈を共有する仲間」の存在が、メイクを続ける上での重要な支えになっている。

FD：男児がメイクをする場合、動機は女兒の「自分探究」とは異なり「かっこよさの追求・パフォーマンスの向上」が核心にある。社会的性別規範への意識が強く、メイクをオープンにできる環境が限定されている点が女兒との決定的な違いである。

【パート B：メイクを始めたきっかけ】

根拠：5 年生からダンス仲間の男児に影響を受けて開始。「一人だったら始めてなかったかも、その子がいたから自分もやっていいんだって思えた」「うまくできなかったけど鏡で見た時になんかいい感じって思った」「普段の自分があまり好きじゃない、ダンスとメイクをしてる時の自分の方が好き」「普段はどこにでもいる感じ、メイクとダンスをしてる時は自分がちゃんという感じ」と発言。

推論：メイク開始の起点が「同じ男児の先行者の存在」であり、一人では踏み出せなかった点が重要だ。「普段の自分があまり好きじゃない」という自己評価の低さが、ダンスとメイクという「かっこいい自分になれる場」への強い引力を生んでいる。

FD：男児がメイクを始める際には「同じ男児がやっている」という先行事例が不可欠である。女兒が母や友達から自然にメイクへ入るのに対し、男児は「やっていい」という許可を外部から得る必要がある。この構造はブランドが男児市場へアプローチする際の重要な示唆を持つ。

【パート C：現使用アイシャドウについて】

根拠：「K-POP のアイドルっぽい感じがするからロムアンドを選んだ」「派手じゃないけどメイクしてる感じは出したい」「そのバランスを探してる感じが楽しい」「ダンスも自分らしさを出しながらアイドルの振りを真似するバランスが大事、それと似てる」「ダンスのためって言う方がわかってもらいやすい」「男がメイクしたいっていうのは理由が必要な気がして」と発言。

推論：ロムアンドの選択は K-POP アイドルとの文脈的一致が決め手だ。「派手すぎず・でもメイクしてる感じ」というバランス探求はダンスの自己表現と同じ感覚として捉えられており、メイクとダンスが蓮の中で一体化している。「ダンスのため」という正当化は社会的性別規範への適応戦略であり、メイクへの純粋な欲求を隠す必要性を感じていることを示している。

FD：男児にとってロムアンドは K-POP アイドルという「男がメイクしてもかっこいい」文脈と直結したブランドとして機能している。キャンメイクにはその文脈がないため「女の子っぽいイメージ」として認識されており、男児市場へのアプローチにおいてブランドの文脈設計が極めて重要である。

【パート D：キャンメイクについて】

根拠：「女の子がよく使ってるイメージ」「男が使っていいブランドって感じがしないと違う感じがして」「色の種類が多くて試してみたい色がある、値段が自分のお小遣いで買えるから」「自分で買えたら自分を認めてる感じがすると思って」「ドラッグストアの方がコスメ専門店より入りやすい」「たまたま寄った感じに見えるから」「キャンメイクを一人でドラッグストアで買えたら、ちょっと自信になるかなって思ってる」と発言。

推論：キャンメイクへの購入意向はあるが「女の子っぽいイメージ」という障壁が存在する。一方で価格の手頃さが「自分で買える＝自己承認」という動機と結びついており、キャンメイクの一人購買が自己承認への第一歩として位置づけられている。ドラッグストアという購買環境への言及は、コスメ専門店への入店障壁が男児に存在することを示している。

FD：男児にとってキャンメイクの購買障壁は価格でも品質でもなく「男が使っているブランドかどうか」という文脈の問題である。ドラッグストアという日常的な購買環境がその障壁を下げる可能性があり、キャンメイクの販路戦略において重要な示唆を持つ。

【パート E：メイクを頑張る理由・これから】

根拠：「メイクしてない時よりも思い切り動ける感じがして恥ずかしさが減る」「どうせ見られるならカッコよく見られたいって思えて」「メイクすると守られてる感じ、人の目から」「メイクしてない時は丸裸な感じ、メイクすると武装できてる感じ」「いつもより堂々と歩ける」「ダンスの練習前にメイクすると気合いが入る、スポーツ選手がユニフォーム着る時みたいな」「蓮じゃなくてダンサーの自分になれる感じ」「テスト前にもメイクすると集中できる気がして」「メイクした自分が本当の自分に近い」と発言。

推論：メイクの心理的機能が「鎧・武装・ユニフォーム」という蓮自身の言葉で表現されており、外部の目への防御と自己変身のツールとして機能している。ダンスのみならずテスト・日常生活においてもメイクがパフォーマンスを上げるトリガーになっており、メイクとダンスが「カッコいい自分になる」という同一の目標に向かって相互に強化し合っている。

FD：男児にとってメイクは「自分を知る道具」ではなく「カッコいい自分に変身し、何でも頑張れる状態になるための準備行為」である。「鎧」「武装」「ユニフォーム」という蓮自身の言葉が示す通り、メイクはパフォーマンスモードへの切り替えトリガーとして機能しており、女兒の「内側へ向かうメイク」とは対照的に「外側へ向かうメイク」の構造を持っている。

【全体総括】

根拠：「鎧」「武装」「ユニフォーム」「カッコいい自分のスイッチ」「家族には認めてもらえたけど自分でまだ認めきれてない」というキーワードが全パートを一貫している。

推論：蓮のメイクは「自分を認める勇気の練習」として機能している。家族の承認→K-POP アイドルという外部証明→最終的には自己承認へという道の途中にいる。女兒が内側から動機を作るのに対し、蓮は外側からの承認を積み重ねて自分を肯定していく構造が見えている。

FD：蓮は男児がメイクをする際の社会的障壁と自己承認の葛藤を最も鮮明に体現するパネルである。「男がメイクしてもいいって普通になってほしい」という最後の言葉は個人の願いであると同時に市場の声であり、男児市場へのアプローチにおける根本的な課題を示している。

【重要メモ】「メイクしたい気持ちは本物。でも社会の目が怖い。お母さんを盾にして入店する。堂々と買いたいけどまだできない。STRAYKIDS みたいになりたい。家族には認めてもらえたけど自分でまだ認めきれてない。」

示唆：男児にとってメイクの購買障壁は価格でも品質でもなく社会的承認の欠如である。「男が使っていいブランド」という文脈とドラッグストアという入りやすい購買環境が、男児市場への鍵になる。

対象者プロフィール

- ・ 氏名：蓮（れん）
- ・ 学年・性別：小学5年生・男児
- ・ 居住エリア：神奈川県横浜市
- ・ 父職業：広告代理店
- ・ 母職業：編集者
- ・ 学校種別：公立小・第1子（妹小1）
- ・ 世帯年収：750万円
- ・ 小遣い：月500円
- ・ 使用ブランド：ロムアンド（ベターザンパレット）
- ・ メイク頻度・シーン：月2～3回・友達との遊びや動画の真似
- ・ 購入区分：親におねだりして買ってもらった
- ・ CANMAKE 購入意向：とても買いたい

発言録

パートA：普段のメイクスタイル

AI モデレーター：こんにちは！今日はメイクのこと、いろいろ教えてほしいんだけど、まず自己紹介してくれる？名前と学年と、好きなこと教えて。

蓮：蓮です。小5です。好きなことは、ダンスと、あとYouTubeとかTikTok 見ること。

AI モデレーター：ダンスやってるんだね。どんなダンス？

蓮：K-POP のダンスとか、TikTok で流行ってるやつとか。友達と練習してる。

AI モデレーター：友達と練習してるんだね。メイクはそのダンスと関係ある？

蓮：関係ある。なんか、K-POP のアイドルってメイクしてるから。真似したくて。

AI モデレーター：K-POP のアイドルの真似でメイクするんだね。今日もメイクしてきてくれた？どんなメイクしてるか教えて。

蓮：今日はアイシャドウだけ。ロムアンドのやつで、ちょっとくすんだ感じの色にした。

AI モデレーター：くすんだ感じの色。それってどうして？

蓮：なんか、K-POP のアイドルってそういう色が多くて。きれいな感じがして好きで。

AI モデレーター：K-POP のアイドルみたいになりたい感じ？

蓮：なりたいというか...なんか、あのかっこよさを出したくて。男の人がメイクしてるのって、かっこいいと思って。

AI モデレーター：男の人がメイクしてるのがかっこいい。それって周りの友達はどう思ってる？

蓮：友達の中では、ダンス仲間はわかってくれる。でも他の子には言っていない。

AI モデレーター：ダンス仲間にはわかってくれる。他の子には言っていないのはなんで？

蓮：なんか...男がメイクするのって変って思う子もいそうで。だから言わない方がいいかなって。

AI モデレーター：メイクしてること、お家の人は知ってるの？

蓮：知ってる。お父さんとお母さんに言って、買ってもらったから。

AI モデレーター：買ってもらったんだね。お父さんとお母さんはなんて言ってた？

蓮：お母さんは最初、え、メイク？って感じだったけど、K-POP のアイドルの真似って言ったら、あーそういうことかって感じで。わりとすぐわかってくれた。

AI モデレーター：お母さんがすぐわかってくれた。お父さんは？

蓮：お父さんは...最初ちょっと黙ってた。でも、お母さんがいいんじゃないって言ったら、まあいいかって感じで。

AI モデレーター：お父さんは最初黙ってた。その時どんな気持ちだった？

蓮：ちょっとドキドキした。なんか、怒られるかなって思って。でも怒られなくてよかった。

AI モデレーター：怒られるかもって思ってたんだね。それでもお父さんに言おうと思ったのはなんで？

蓮：隠してたくないから。なんか、こっそりやるのは嫌で。ちゃんと言って、いって言ってもらいたかった。

AI モデレーター：こっそりやるのは嫌。ちゃんと言いたかった。それって大事なことなんだね。お父さんが黙ってた時、お母さんが助けてくれた感じ？

蓮：うん。お母さんがいいんじゃないって言ってくれてよかった。お母さんはなんか、新しいことに理解ある感じがして。編集者だからかな。

AI モデレーター：家族に受け入れてもらえたから自分でもいいんだって思えた。それってメイクを続ける自信になってる？

蓮：なってる。家族がいいって言ってくれてるから、自分がやりたいことをやっていいんだって思える。

パート B：メイクを始めたきっかけ

AI モデレーター：K-POP が好きって言ってたけど、K-POP ってどこで知ったの？誰かの影響がある？

蓮：友達かな。ダンス仲間の子が K-POP 好きで、その子に教えてもらって。

AI モデレーター：ダンス仲間の子に教えてもらったんだね。最初に見た時どう思った？

蓮：なんか、かっこいいって思って。踊りもかっこいいし、見た目もかっこいいし。男の人がメイクしてて、それがかっこよかった。

AI モデレーター：男の人がメイクしてるのがかっこいいって思ったのはその時が最初？

蓮：うん。それまでメイクって女の人がするものって思ってたから、なんか新鮮だった。

AI モデレーター：新鮮だった。特に好きなアイドルとかグループある？

蓮：STRAYKIDS とか ENHYPEN とか。なんか、メイクしててもかっこいい人たちって感じがして。

AI モデレーター：STRAYKIDS と ENHYPEN。その人たちのどんなところがかっこいいと思う？

蓮：なんか、強そうなのにきれいな感じ。メイクしてても弱くない感じ。男らしさとおしゃれが両方ある感じ。

AI モデレーター：強そうなのにきれい。男らしさとおしゃれが両方ある。それって蓮くんが目指してる感じ？

蓮：目指してる。なんか、メイクしてるからって弱いわけじゃないって思いたくて。

AI モデレーター：メイクしてるからって弱いわけじゃないって思いたい。それって誰かに弱いって思われそうで怖い？

蓮：...ちょっとある。だからダンス仲間以外には言ってない。でも、STRAYKIDS とかを見てると、メイクしててもかっこいいって証明されてる感じがして、自信になる。

AI モデレーター：メイク、いつ頃から始めたの？最初に何をやってみたか覚えている？

蓮：5 年生になってから。ダンス仲間の子がメイクしてて、真似してみたくなって。

AI モデレーター：ダンス仲間の子が先にやってたんだね。その子は男の子？

蓮：男の子。その子も K-POP 好きで、ダンスの時にメイクしてて。かっこいいなって思って。

AI モデレーター：同じ男の子がやってたから始めやすかった？

蓮：うん。一人だったら始めてなかったかも。その子がいたから、自分もやっていいんだって思えた。

AI モデレーター：最初にメイクしてみた時どうだった？

蓮：なんか、うまくできなくて。でも鏡で見た時に、なんかいい感じって思って。続けてみようって思った。

AI モデレーター：うまくできなかったけどいい感じって思った。どういういい感じ？

蓮：なんか、いつもの自分と違う感じ。ダンスの時の自分みたいな感じというか。

AI モデレーター：ダンスの時の自分みたいな感じ。それってどういう自分？

蓮：なんか、ダンスしてる時って、普段と違う自分になれる感じがして。メイクしてる時も同じ感じがして。

AI モデレーター：ダンスとメイクで同じ感じがする。普段の自分と違う自分って、どんな自分？

蓮：なんか...かっこいい自分、かな。普段はそんなにかっこよくないけど、ダンスしてる時とメイクしてる時は、かっこいい自分になれる気がして。

AI モデレーター：かっこいい自分になれる。それって蓮くんにとって大事な感覚なんだね。

蓮：うん。なんか、普段の自分があまり好きじゃないから。ダンスとメイクをしている時の自分の方が好き。

パートc：現使用アイシャドウについて

AI モデレーター：今使ってるロムアンドのアイシャドウ、なんで欲しくなったの？

蓮：TikTok で見て、色がかっこよくて。あと K-POP のアイドルが使ってるイメージがあって。

AI モデレーター：K-POP のアイドルが使ってるイメージ。それって実際に使ってるの見たの？

蓮：直接見たわけじゃないけど、なんかロムアンドって韓国コスメだから、アイドルっぽい感じがして。

AI モデレーター：アイドルっぽい感じがするから選んだんだね。色はどんな色を選んだの？

蓮：くすみ系のブラウンとか、ちょっとグレーっぽい色とか。派手じゃないけど、ちゃんとメイクしてる感じの色。

AI モデレーター：派手じゃないけどちゃんとメイクしてる感じ。それってなんで派手じゃない方がいいの？

蓮：なんか、派手だと目立ちすぎる感じがして。学校では言っていないから、わかりやすすぎるのは嫌で。でもメイクしてる感じは出したくて。

AI モデレーター：ダンスのためって言ったらわかってくれた。それって本当にダンスのため？それとも普段も使いたかった？

蓮：...両方かな。ダンスのためっていうのは本当だけど、普段も使いたかった。でもダンスのためって言う方が、わかってもらいやすいと思って。

AI モデレーター：ダンスのためって言う方がわかってもらいやすい。またお母さんを盾にする感じと似てるね。

蓮：...そうかも。なんか、まだ堂々とできないから、言い訳を作っちゃう。

AI モデレーター：ロムアンド買いに行った時、誰と行ったの？

蓮：お母さんと一緒に行った。一人じゃ行けなくて。

AI モデレーター：一人じゃ行けなかった。それってなんで？

蓮：なんか...男の子がコスメ買ってるのって、恥ずかしいというか。一人だと、なんか見られてる気がして。

AI モデレーター：お店でどんな感じだった？

蓮：最初、入る前にちょっと躊躇した。コスメのお店って、女の人ばかりだから。でもお母さんが一緒だから入れた。

AI モデレーター：お母さんのために来た感じに見えるから入れた。堂々と買いたいけどまだできない。それっていつかできると思う？

蓮：できるようになりたい。なんか、STRAYKIDS の人たちって堂々としてるから。ああなりたいけど、まだ自信がなくて。

AI モデレーター：一人で堂々と買えるようになったら本当に自分を認めてる感じ。それってまだできてない？

蓮：まだ途中。家族には認めてもらえてるけど、自分で自分をまだ認めきれてない感じがして。

パートD：キャンメイクについて

AI モデレーター：キャンメイクって知ってる？

蓮：知ってる。女の子がよく使ってるイメージ。

AI モデレーター：女の子がよく使ってるイメージ。蓮くんは使いたいと思う？

蓮：使いたいと思う。でもなんか、キャンメイクって女の子っぽいイメージが強くて。

AI モデレーター：女の子っぽいイメージが強い。ロムアンドとはそこが違う？

蓮：ロムアンドってなんか、K-POP のアイドルのイメージがあるから。男が使ってるイメージもあって。キャンメイクはそのイメージがあまりなくて。

AI モデレーター：男が使っていいブランドって感じが大事。でもキャンメイク買いたいて思ってるんだよね？

蓮：うん。なんか、色の種類が多くて、試してみたい色があって。あと値段が自分のお小遣いで買えるから。

AI モデレーター：自分のお小遣いで買えるのが大事なんだね。それってなんで？

蓮：なんか、親に頼まなくて済むから。自分で買えたら、もうちょっと自分を認めてる感じがすると思って。

AI モデレーター：キャンメイクならそれができるかもって思ってるの？

蓮：うん。値段的に自分で買えるから。でもやっぱりお店に一人で入れるかどうかが問題で。

AI モデレーター：ドラッグストアの方がコスメ専門店より入りやすい。それってなんで？

蓮：なんか、コスメだけじゃなくていろんなもの売ってるから。コスメ買いに来た感じじゃなくて、たまたま寄った感じに見えるから。

AI モデレーター：言い訳を作っちゃう。それって自分でわかってるんだね。

蓮：わかってる。でもまだそこまでできなくて。キャンメイクを一人でドラッグストアで買えたら、ちょっと自信になるかなって思ってる。

パート E：メイクを頑張る理由・これから

AI モデレーター：蓮くんにとって、なんでメイク頑張ってると思う？自分的にはどういう気持ちでやってる？

蓮：なんか、カッコいい自分になりたいから。ダンスしてる時みたいな自分に、普段もなれる感じがするから。

AI モデレーター：メイクしてカッコいい自分になる。その先にはなにか力が湧くとか？

蓮：ある。なんか、ダンスの時にメイクしてると、もっと動ける感じがして。

AI モデレーター：もっと動ける感じ。それってどういう意味？

蓮：なんか、メイクしてない時よりも、思い切り動ける感じがして。恥ずかしさが減る感じというか。

AI モデレーター：恥ずかしさが減る。それってなんで？

蓮：なんか、メイクしてると、もう見られてもいいって感じがして。どうせ見られるなら、カッコよく見られたいって思えて。

AI モデレーター：どうせ見られるならカッコよく見られたい。それってメイクが鎧みたいな感じ？

蓮：鎧。そう、まさにそんな感じ。メイクすると、守られてる感じがして。

AI モデレーター：守られてる感じ。何から守られてる？

蓮：なんか...人の目、かな。メイクしてない時って、なんか丸裸な感じがして。メイクすると、ちゃんと武装できてる感じがして。

AI モデレーター：武装できてる感じ。それってダンスの時だけ？普段もその感じある？

蓮：普段もある。メイクして外出る時って、なんか自信が出て。いつもより堂々と歩ける感じがして。

AI モデレーター：ダンスの練習前にメイクすると、気合いが入るって感じがあある？

蓮：ある。なんか、スポーツ選手がユニフォーム着る時みたいな感じかな。

AI モデレーター：ユニフォームを着る時みたいな感じ。メイクがユニフォームなんだね。

蓮：うん。なんか、メイクすると、蓮じゃなくてダンサーの自分になれる感じがして。

AI モデレーター：蓮じゃなくてダンサーの自分になれる。その切り替わりって、メイクしてる時のどの瞬間に感じる？

蓮：鏡で最後に確認する時。あ、できたって思った瞬間に、なんかスイッチが入る感じがして。よし、行けるって思えて。

AI モデレーター：テスト前にもメイクするの？

蓮：家でだけど。なんか、メイクすると、集中できる気がして。カッコいい自分のスイッチが入ると、勉強も頑張れる感じがして。

AI モデレーター：最後に聞かせて。蓮くんにとって、メイクって何？

蓮：...カッコいい自分になるための道具、かな。ダンスと同じで、自分を表現するためのもの。

AI モデレーター：最後に他に話したいことあったら何でも。

蓮：なんか、男がメイクしてもいいって、もっと普通になってほしい。そしたら、もっと自由にできるのになって思っ。

AI モデレーター：男がメイクしてもいいって普通になってほしい。その言葉、大事にするね。今日いろいろ教えてくれてありがとう。